

「高耐荷力方式編」

泥土圧方式（圧送排土方式）の積算

※標準管

工法名：エースモール工法

1. 呼び径

管径番号の入力 呼び径：250 mm

土質番号 管径番号		※日推協積算基準									
		普通土[A]		硬質土[B]		礫質土[C]		礫・玉石混り土[D]		礫・玉石混り土[E]	
		1		2		3		4		5	
		日進量	滑材	日進量	滑材	日進量	滑材	日進量	滑材	日進量	滑材
1	250	8.5		5.1		4.3		3.3		2.7	
2	300	8.5		5.1		4.3		3.3		2.7	
3	350	8.8		5.2		4.4		3.3		2.7	
4	400	9.0		5.6		4.8		3.6		3.0	
5	450	9.0		5.6		4.8		3.6		3.0	
6	500	9.0		5.6		4.8		3.6		3.0	
7	600	7.5		4.5		4.5		3.3		2.7	
8	700	7.5		4.5		4.5		3.3		2.7	

2. スパン割り

※注：スパン順序は推進する順番に記入して下さい。

スパン	推進距離 (m)	土質番号 1～5	日進量	滑材	100m以上か	施工順序		
1	97.560	4	3.60		2	1	開始スパン	1：開始スパン
2								2：方向転換
3								3：推進設備移設
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
スパン数計	1 スパン	1			YES：1 NO：2			
延長計	97.560 m	2						
		3						
		4	97.560	平均				
平均	97.560 m	5		(m/日)				
最大スパン	97.560 m	計	97.560	3.60				
							方向転換：	回
							推進設備移設：	回

立坑内布設延長＝ m

4. 発生土処理

※ 1 日当り運搬土量 = 1 m 当り掘削土量 × 日進量

$$= 0.360^2 \times \pi/4 \times 3.6 = \boxed{0.37} \text{ m}^3/\text{日}$$

※右表より、
ダンプトラック車種= 2 t 積

運転時間 = 2 時間

ダンプトラック借上げ基準 (P. 99)

※金額：m3/円

種別 1日当り運搬土量	4 t 車			2 t 車		
	回数	運転時間	金額	回数	運転時間	金額
1. 1m3/日以下				1	2	#REF!
1. 1～2. 2m3/日	1	2	#REF!	2	4	#REF!
2. 2m3/日以上	2	4	#REF!	3	6	#REF!

$P_{0.075}$: 0.075mm 粒径通過百分率 = %

$P_{0.25}$: 0.25mm粒径通過百分率 = %

$P_{2.0}$: 2.0mm 粒径通過百分率 = %

γ : 注入損失係数

$$= 1.7$$

滞水砂層、礫玉石混り土礫率60%以下 1.5~1.6

礫玉石混り土60%以上 1.7~1.8

5. 仮設備工

発進坑口 = 1 箇所

到達坑口 = 1 箇所

発進鏡切り工＝		箇所	鋼矢板Ⅱ型
		箇所	鋼矢板Ⅲ型
	1	箇所	ライナープレート
		箇所	小型立坑

到達鏡切り工＝		箇所	鋼矢板Ⅱ型
		箇所	鋼矢板Ⅲ型
	2	箇所	ライナープレート
		箇所	小型立坑

先導体回収方法= 2 1 : 一体回収 2 : 分割回収

安全退避設備= 2 1:計上する 2:計上しない
箇所(※計上する場合)

6. 工程条件

 α : 不稼働係数 = 1.4

7. 水道料金・産廃受入費

水道料金 200 円/m³

産廃受入費 13,000 円/m³

建設残土受入費 500 円/m³

電力料 15.00 円/KW